

## どんな問題にも答えはあるのか？

### 兄弟

ビルは学校に行く途中、曲がり角でローレンとばったり出会った。彼女がイライラしているのにビルは気がついた。ビスケットを二つ、リュックから取り出すと、その一つをローレンに差し出した。むっつりしたまま彼女はそれを受け取ると、二人は歩きながらビスケットを食べはじめた。

#### ローレン：

〈大きくため息をつきながら〉すっごいムカつく！ ジュリーの奴、私のものをいつも勝手に使うのよ。しかもそのことを注意すると、話をねじ曲げて〈変えて〉親にチクって、ますます面倒なことになるってわけ。

#### ビル：

でもまあ、妹がいるってのは良いことじゃん！ 嫌なときもあるかもしれないけど、良いときだってあるはずだよ。ぼくは一人っ子だからね。寂しいったらありゃしない。

#### ローレン：

〈ビルが言ったことをしばらく考えてから〉その通りね。でもね、妹じゃなくて男の兄弟がいたらなあって思うこともあるわけよ。

#### ビル：

どっちでも良いけどな。兄弟でも姉妹でもいたらどんなかなって、ときどき想像するんだ。そういうの、好きなんだ。

#### ローレン：

〈少し励ますように〉兄弟がいるとしたら、上と下、どっちが良い？

#### ビル：

下だね。そしたら、ぼくが威張れる。

#### ローレン：

私はお兄ちゃんかな。そしたら、車であちこち連れてってもらえる。

#### ビル：

その、イメージの中の兄貴 (imaginary brother) は背が高くてバスケをやってるかな？

#### ローレン：

まさか！ わたし、バスケなんてだいきらい。

#### ビル：

君じゃなくて、その兄貴がどうなのかって聞いてるんだよ？ どこのファンかな？

**ローレン：**

〈イライラしてくる。〉どこのファンとか、ないの！

**ビル：**

でも、現にそいつがバスケ好きだとするだろ、そしたら、好きなチームがあるはずだって思わない？ね？

**ローレン：**

いいえ、そんなことないわ。だって彼は、あくまでも私の想像上のお兄ちゃんであって、私が好きなように作ることができるんだから。

**ビル：**

そんなことないよ。どんなものが存在できるかには、限度ってものがあるだろ。〈話をやめて少し考え込む。〉たとえば、そいつの背を3mにすることはできないし、空を飛べるようにすることもできない。それに、男子はたいがいバスケ好きなんだから、そいつにだってどこか好きなチームがあるはずなんだよ。

**ローレン：**

〈再び機嫌が悪くなって〉そうかもね、何が存在できるかには限度があるかもね。でも、想像には限界なんてないわよね。仮に私がウソの兄さんを好きなようにつくれないうなら、それは、存在しているものを使って想像しようとしている、ということよ。

**ビル：**

〈いらいらしながら首を振って〉それはすばらしいね。その間にぼくは、むっつりないで、ニコニコしている君の姿を想像してみることにするよ。

## 問題

1.

ローレンの想像上の兄に好きなチームがあると、ビルが考えた理由は？

ローレンがそれを否定した理由は？

あなたはどちらに賛成しますか？その理由は？

2.

ビルによれば、自分の想像上の兄弟は、年下(弟)です。ローレンによれば、自分の想像上の兄弟は年上(兄)でした。彼らの言ったことは、事実でしょうか、意見でしょうか、それともどちらでもないのでしょうか？その理由は？

3.

想像できることには限界がないとローレンは言っています。ローレンは正しいと思いますか？たとえば、あなたは、同時に年下でもあり年上でもあるような、しかも一人の兄弟を想像することができますか？